事 前 評 価 調 書(案)

Ι	事業概要										
事 業 名 農業農村整備事業(水質保全対策事業)											
地	区名	名 大塚井筋地区									
車	業箇所	稲沢市矢合町 外									
- 		愛西市勝幡町 外									
		大塚井筋水路は、昭和 21 年度から 25 年度にかけて県営かんがい排水事業で整備された後、昭									
		和 54 年度から 59 年度にかけて上流部は国営事業、下流部は県営水質障害対策事業により用排分									
		離された排水専用の開水路である。									
事	業のあ	本地区は水稲を中心とする水田地帯であり、一部畑地域ではホウレンソウの生産も盛んである。									
i,	らまし	近年、土砂の堆積、雑草の繁茂、生活排水の流入、周辺地域の宅地化の進展に伴うゴミ等の投									
		棄により、水路の排水機能の低下や悪臭の発生が著しく、維持管理労力の増大や生活環境の悪化 ************************************									
		を招いている。 このため、本事業による水路の暗渠化により排水機能の確保と水質の浄化を図り、維持管理の									
		軽減並びに生活環境の改善を図る。									
		【達成(主要)目標】									
		排水路を暗渠化し、農業排水の水質を改善させ、生活環境の保全を図る。									
事	業目標	【副次目標】									
		農地及び農業用施設等の湛水被害を防止し、農業生産の維持及び農業経営の安定を図る。									
		(基準雨量 214 mm/日、1/10 年確率雨量)									
車	業費	事業費									
-	不 员	42.6 億円 ■工事費 36.6 億円、■用補費 1.5 億円、■その他 4.5 億円									
事業期間		採択予定年度 平成 29 年度 着工予定年度 平成 30 年度 完成予定年度 平成 38 年度									
車	業内容	排水路工 6.5km									
7	未內谷	が小崎工 U. JNIII									
П	評価										
	1) 必要	k 水路への生活排水の流入や土砂の堆積、雑草の繁茂、ゴミの投棄等により、排水機能の低									
		下や悪臭の発生が著しいことから、水路の暗渠化により機能確保と生活環境の改善を図る必									
1		要がある。									
事業		A:現状の課題又は将来の予測から事業の必要性がある。									
業の必要性		A B: 現状の課題又は将来の予測が十分把握されていない。									
必要		【理由】									
性	判定	*****									
		解消し維持管理の軽減並びに生活環境の改善を図ることができることから、本施設の改修は									
		必要不可欠である。									

	1) 貨幣価値 【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析結果】													
	化可能な 効果(費	区分							評価時 手:H28		備考			
	用対効果		事業	書				(坐十-	30.					
	分析結	費用	サースの	2 他費用					0.					
	果)	(億₽	円) [(())		計 (C))			30.					
			作物。	生産効果					0.					
					<u>~</u> 節減効タ				 △ 0.					
					果(農業				32.					
		】			果(一般		E)		307.					
					計(B)				340.					
		(1/6/1			<u>ローロク</u> 稲作付こ		1		105.					
			算		通畑作作				32.					
2			要是		世加IFI	り田(ほ)	ia)		٥۷.	+				
②事業の効果									11.2	1			-	
あの		<u> </u>	貝用外別木	7) 171 110	未(口	/ ()			11.2	4				
巢		【貨幣	※金額は、社会的割引率(4%)を用いて現在の価値に換算したもの。 【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析手法】 「土地改良事業の費用対効果分析マニュアル」(平成27年9月)による。											
	2) 貨幣価値	該当7	なし											
	化困難な		0.0											
	効果													
	XJ木						1.6-L - 1-							
		A: 十分な事業効果が期待できる。 B: 十分な事業効果が期待できない。												
	判定	【理由】												
		【埋田】	1											
				f結果 <i>t</i>	いら十分	↑な効∮	見が期待	きできる	5.					
			」 対効果分析	折結果 が	いら十分	かな効果	県が期 行	寺できる	5.					
	1) 事業計画			が結果が	いら十分	かな効見	果が期行	寺できる	5.					
										H35	H36	Н37	Н38	
		費用対	- 対効果分析	所結果が H29	から十分 H30	子な効り H31	H32	寺できる H33	Б. Н34	H35	H36	H37	H38	
		費用対	対効果分析 対効果分析							H35	H36	H37	H38	
		費用対	対効果分析 対効果分析 調査・設計 用地補償							H35	H36	H37	H38	
		費用対	対効果分析 対効果分析 調査・設計 用地補償 工事							H35	H36	H37	H38	
		費用文工種分	対効果分析			H31				H35		H37	H38	
		費用文工種分	対効果分析 対効果分析 調査・設計 用地補償 工事							H35	H36	H37	H38	
		費用文工種分	対効果分析			H31				H35		H37	H38	
3	1) 事業計画	費用対工種分工を対する。事業	対効果分析 調査・設計 用地補償 工事 ・排水路工 費(億円)	H29	H30	H31	H32	H33	H34		23.1		**	
③事業	1) 事業計画 2) 地元の合	費用対工種分工を対する。事業	対効果分析	H29	H30	H31	H32	H33	H34		23.1		**	
③事業の	1) 事業計画 2) 地元の合 意形成	費用文工種分工区分事業	対効果分析 調査・設計 用地補償 工事 ・排水路工 費(億円)	H29	H30 ← 	19.5	H32	H33	H34 世元の食	合意形成	23.1	られて	いる。	
③ 事業の実施 (3)	 事業計画 地元の合意形成 環境への 	費用 工種分 事業 本地に 工事(対効果分析 調査・設計 用地補償 工事 ・排水路工費(億円)	H29 女 女良法!	H30 - - - - - - - - - - - - -	19.5	H32 事業でも ・排出力	H33 あり、± ガス対録	H34 也元の食	合意形成	23.1 成は図の使用等	られてい	いる。	•
③事業の実効性	1) 事業計画 2) 地元の合 意形成	費用 工種分 事業 本地に 工事(対効果分析 調査・設計 用地補償 工事 ・排水路工 費(億円)	H29 女 女良法!	H30 - - - - - - - - - - - - -	19.5	H32 事業でも ・排出力	H33 あり、± ガス対録	H34 也元の食	合意形成	23.1 成は図の使用等	られてい	いる。	•
③事業の実効性	 事業計画 地元の合意形成 環境への 	費用 工種分 事業 本地に 工事(対効果分析 調査・設計 用地補償 工事 ・排水路工費(億円)	H29 女 女良法!	H30 - - - - - - - - - - - - -	19.5	H32 事業でも ・排出力	H33 あり、± ガス対録	H34 也元の食	合意形成	23.1 成は図の使用等	られてい	いる。	•
③事業の実効性	 事業計画 地元の合意形成 環境への 	費用 工種分 事業 本地に 工事(対効果分析 調査・設計 用地補償 工事 ・排水路工費(億円)	H29 女 女良法!	H30 - - - - - - - - - - - - -	19.5	H32 事業でも ・排出力	H33 あり、± ガス対録	H34 也元の食	合意形成	23.1 成は図の使用等	られてい	いる。	•
③事業の実効性	 事業計画 地元の合意形成 環境への 	費用 工種分 事業 本地に 工事(対効果分析 調査・設計 用地補償 工事 ・排水路工費(億円)	H29 女 女良法!	H30 - - - - - - - - - - - - -	19.5	H32 事業でも ・排出力	H33 あり、± ガス対録	H34 也元の食	合意形成	23.1 成は図の使用等	られてい	いる。	•
③事業の実効性	 事業計画 地元の合意形成 環境への 	費用 工種分 事業 本地に 工事(対効果分析の場合・設計の関連を対象に関する。対象は対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対	H29 女良法! なこと!	H30 本 本 る音・似 こより、	19.5 (申請事	H32 ・ 排出っ 物の生	H33 り、 [‡] ガス対境	H34 也元の食	合意形成	23.1 成は図の使用等	られてい	いる。	•
③事業の実効性	 事業計画 地元の合意形成 環境への 	費用 工区 事業 本地 工対策	対効果分析 調用地 調用地 ・排標 ・排係円) は 土 し し する ・ A :	大良法に 対良法に 事業計	H30 本 本 本 る 音 ・ は よ り 、 画 の 実	H31 19.5 (申請事	#32 ・排出が 物の生	H33 あり、 [±] ガス対境 きる。	H34	合意形成	23.1 成は図の使用等	られてい	いる。	•
③事業の実効性	1) 事業計画 2) 地元の合意形成 3) 環境への影響	費用 工種分 事業 本地に 工事(対効果分析 調用地 調用地 ・排標 ・排係円) は 土 し し する ・ A :	大良法に 対良法に 事業計	H30 本 本 る音・似 こより、	H31 19.5 (申請事	#32 ・排出が 物の生	H33 あり、 [±] ガス対境 きる。	H34	合意形成	23.1 成は図の使用等	られてい	いる。	•
③事業の実効性	 事業計画 地元の合意形成 環境への 	費用 工区 事業 本地 工対策	対効果分析 調査・ 調査・ 調本 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	大良法に 対良法に 事業計	H30 本 本 本 る 音 ・ は よ り 、 画 の 実	H31 19.5 (申請事 3.振動・水生生	#32 ・排出が 物の生	H33 あり、 [±] ガス対境 きる。	H34	合意形成	23.1 成は図の使用等	られてい	いる。	•
③事業の実効性	1) 事業計画 2) 地元の合意形成 3) 環境への影響	費用 本 工 対 策 不 工 対 工 対 策 不 工 対 策 不 工 対 策 不 工 対 策 不 工 対 工 工 対 工 工 工 工 工 工 工 工 工 工 工 工 工 工	対効果分析 調査・ 調査・ 調本 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	H29 女良法に なことに 事業計	H30 基づく 基音・4 こより、	H31 19.5 (申請事 私 水生生	#32 ・排出な物の生 が期待で	H33 り、サ ガス環境	H34 地元の食 を型建言 及び地	含意形序 分機械(域住民	23.1 成は図の使用等	られてい	いる。	•

	1) 代替案の	排水機能の確保及び水質障害の解消のため暗渠化するものであり、コンクリート製・						
④ 事	比較検討	オ│ ック積等の水路形式を施工性・経済性・維持管理等の観点から総合的に勘案し、。。						
	結果	検討した結果、最も妥当な計画としている。						
業			A: 手段に代替性がなく妥当である。又は、手段には代替性があるが当該手段					
④事業手法の妥当性		A	が最も妥当である。					
	和100		B: 手段には代替性があり、改善の余地がある。					
	判定	【理由】 経済性、	現地状況等から、最も妥当な事業計画である。					

Ⅲ 対応方針(案)

事業実施が 事業実施が妥当である。: 上記①~④の評価ですべてA判定であるもの。

妥当である。 事業実施は妥当でない。: 上記以外のもの。

Ⅳ 事後評価実施の有無と主な評価内容

■対象(事業完了後5年目) □対象外

【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】

_

【主な評価内容】

- 施設の維持管理状況
- ・水質の改善状況(項目:水素イオン濃度、生物化学的酸素要求量、浮遊物質量、溶存酸素量)
- ・本事業は想定規模と同等の降雨がなければその効果を検証できないため、事業完了後5年以内に想定規模 と同等の降雨が発生した場合にその効果を検証する。

V 事業評価監視委員会の意見

VI 対応方針